

地方の人口と経済が急速に縮小する中で各地域は企業誘致などによる産業振興に力を注いできた。しかし持続可能な社会・経済活動の必要性から、進歩・発展一辺倒の対応では解決できない状況が見られる。そこで新たにその価値を見直されているのが、地域に暮らす人々の日常ともいえる景観や伝統文化の持つ可能性である。

筆者が在住する佐野市には伝統工芸「天明鋳物」がある。千年以上にわたるその歴史は、平安時代の武將藤原秀郷が武器を作らせたのが始まりとされる。以後、茶の湯が流行した時代には千利休



まりとされる。以後、茶の湯が流行した時代には千利休

や豊臣秀吉、徳川家康に茶器が愛用されるなど、筑前の芦屋の釜と並び全国にその名を知られる存在となった。

現在は数軒の鋳物業者が時代に合わせた工芸品や機械部品を作り、その優れた技術を継承している。さらに佐野には標高242m、山頂の「天

杉氏や小田原の北条氏からの攻撃をたびたび退け、関東では数少ない織豊系の築城技術で最大8層を超える高い石垣を有する城郭でもあり、地域の貴重な史跡である。

しかしどんなに優れた文化遺産も、その保存と普及に向けた取り組みは経済的効果

て、佐野商工会議所による商標登録の実現や市文化協会、市民文化振興事業団の支援、市天明鋳物まちづくり推進計画に基づきブランド構築や展示会・体験会の実施をはじめ、地域が一体となった保存・普及に取り組んでいる。

また唐沢山城跡では、市が

市民団体等がボランティアとして頻繁に清掃活動を実施するなど地域ぐるみで観光資源としても重要な文化遺産を支えている。

人間は前の世代から歴史や文化を継承しつつ、それを地域の人たちと普遍的なものとして共有し、生きるよりどころとしてきた。伝統文化の中には、一見すると社会の発展とは無関係に見えるものが多い

## 伝統文化で強固な地域を

狗岩」から関東平野一円を見渡すことのできる唐沢山一帯に築かれた国指定史跡「唐沢山城跡」がある。

この特徴的な山城も藤原秀郷の流れをくむもので、地域を長らく領有した佐野氏により戦国時代に地域支配の拠点として整備された。越後の上

を狙う事業とは性格が異なる。地域再生の試みとして成功例は多くない。経済的効果を見込む場合には、行政と地域住民、各団体、ひいては地域同士が連携し組織化される

佐野市では天明鋳物について

2016年に設けた史跡唐沢山城址保存活用計画に基づき唐沢山城跡整備基本計画が策定され、保存と安全対策のため石垣に影響する樹木の伐採や緊急を要する石垣の整備を行っている。1万人を集めた17年の「全国山城サミット

佐野大会」の開催や、多くの

しかし短期的な視点に捉われるのではなく、地域が一体となって先人の知恵や遺産を継承し、強固なコミュニティの形成を目指す。それは定住者やインバウンド(訪日客)増加に向けた第一歩にもつながるであろう。

(佐野日大学園名誉学園長)